

# 須崎港の概要について

高知県 土木部  
港湾・海岸課

- ▶ 須崎港は、土佐湾のほぼ中央、高知市の西約30kmの須崎市に位置する重要港湾である。
- ▶ 須崎港の背後には、石灰石の積み出しやセメント製造を行う企業、原木の製材・加工を行う木材団地等が立地し、四国一の貨物量を誇る工業港として機能している。



## 大間地区

○船だまりに多数の漁船が係留



## 浜町地区

○魚市場が立地



○富士ヶ浜は市民憩いの場として利用



## 大峰地区

○セメントを製造する企業が立地



## 港町地区

○木材工業団地が立地



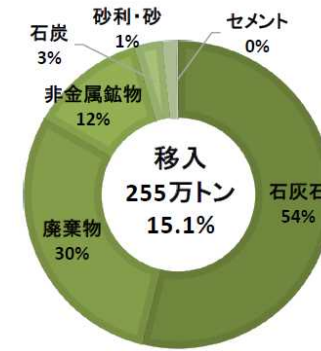
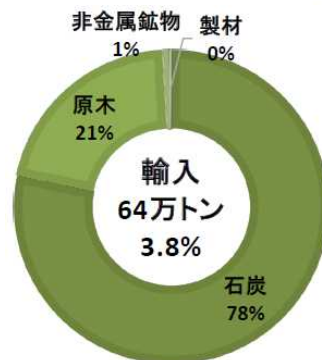
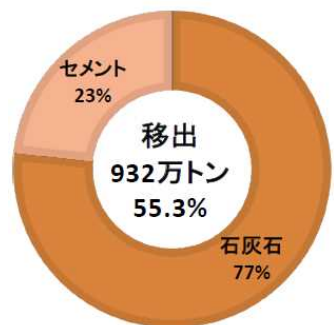
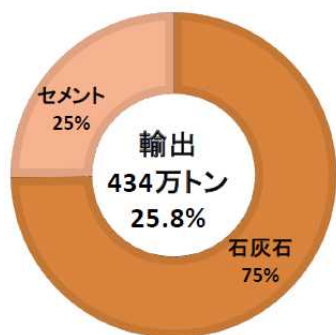
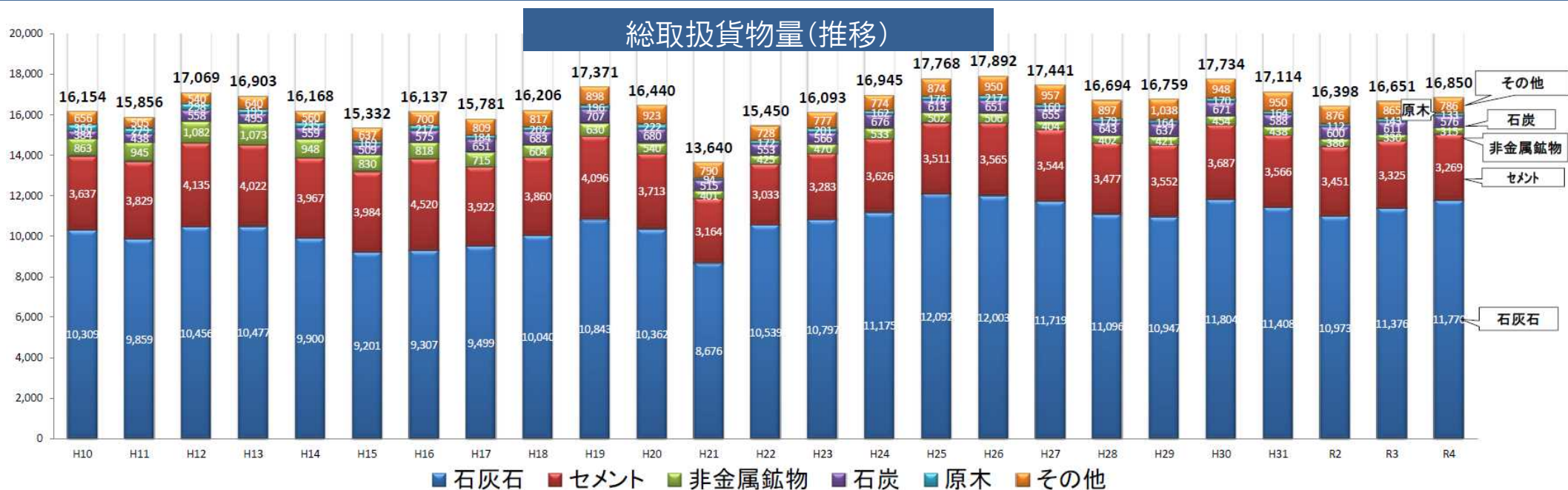
## 湾口地区

○全長1.4kmの津波防波堤  
○石灰石を取扱う企業が立地



## 港湾取扱貨物の状況

- 近年の取扱貨物量は、1,600～1,700万トンで推移している。
- 平成26年以降、フェリーを除く港湾取扱貨物量は **四国で1位** となっている。
- 輸出・移出の主な貨物は、石灰石(約7割)、セメント(約2割)となっている。
- 石灰石は、主にオーストラリア・台湾・香港に輸出、千葉県・神奈川県などに移出し、セメントの原料や鉄鋼の製鉄に用いられている。セメントは、主に韓国・シンガポールに輸出、愛知県・和歌山県などに移出している。
- 輸入の主な貨物は、セメント工場の燃料として石炭(約8割)をロシアから、梱包材の原料用として原木をニュージーランドから輸入している。  
(製材は兵庫県・大阪府などに陸送)





湾口地区

港町地区

- ・西岸には、日鉄鉱業(株)鳥形山鉱業所が立地し、日本最大の生産量を誇る鳥形山鉱山より ベルトコンベアで石灰石を搬入している
- ・専用岸壁・栈橋(水深7.5~13.5m)から石灰石を輸移出している

日鉄鉱業  
鳥形山鉱業所

湾口地区

背後に石灰石の産地である鳥形山を抱える須崎港は、石灰石の輸移出で国内有数の取扱貨物量を誇り、平成26年は輸出が約282万トンで国内1位であるとともに、8割近くの圧倒的なシェアを占める。  
2021年度は、石灰石・セメントの移出が約888万トンで、国内2位となっている。

移 出 (上位5港を集計)				
順位	港 名	石灰石 取扱貨物量 (千トン)	セメント 取扱貨物量 (千トン)	合 計
1	津久見	15,223	1,831	17,054
2	須 崎	6,920	1,958	8,878
3	高 知	2,422	—	(2,422)
4	八 戸	2,301	—	(2,301)
5	尻屋岬	2,072	—	(2,072)
国内計		33,993	31,847	65,840

( )は石灰石取扱量のみを示す。



・内陸部に立地する白石工業株式会社佐工場では、港町地区の公共岸壁を利用して燃料のコークスを移入している



・住友大阪セメント株式会社高知工場が立地し、専用岸壁、ドルフィンを利用してセメントの移出と石灰石・廃棄物等に移入している  
 ・公共岸壁ではセメントの輸移出と廃棄物に移入している



・須崎港における公共貨物の取扱拠点(木材関連企業等が多く立地)  
 ・岸壁(水深5~10m)が連続し、主に原木、砂利・砂・石材を取り扱っている

